

特集：平成26年度 山と自然のサイエンスカフェ@信州から

第4回「植物からみた南アルプスの魅力」(9月18日)

第4回目は、植物分類担当の蛭間啓から、奥深い秘境としての南アルプスの魅力を植物の視点から話題提供します。まだこれから開催予定ですが、本号が発行されるときには終了していますので、その内容を紹介します。

南アルプスは、赤石山地という本名をもっています。私は赤石山地という呼び名のほうが好きなのですが、あえて広く知られている南アルプス（以下南ア）という言葉を使わせていただきました。赤石というのは、南アを形成する岩石のシンボルをうまくとらえた名前、日本列島ができあがるよりもっと前に海底に積もったものからできている岩石の、代表のようなものと考えてください。このような岩石には赤色のほかに、緑色、灰白色など、様々な種類の岩石があり、南アの魅力の土台をなしています。

地質の話から入ってしまいましたが、植物からみた魅力について考えますと、山体が大きく、谷が奥深いことや、石灰岩などの特殊な地質があり、未開の秘境探検気分、宝探し気分が味わえるというところに私は魅力を感じます。多くの情報が含まれ、残されている山塊であるともいえます。

◆特殊な地質

今回はこれまであまり紹介されてこなかった南アの土手っ腹部分（山地帯、亜高山帯）での植物の話題を中心に紹介します。南アには大規模な石灰岩の岩脈があり、そこには固有性の高い植物が生育しています。ヤツガタケトウヒ、シナノコザクラ、トヨグチウラボシ、ヤシャ



写真1. ヤツガタケトウヒ



写真2. イナトウヒレン

イノデ、トダイハハコなどがそうです。北岳の高山の石灰岩地には有名な南ア固有種キタダケソウが生育しています。また部分的に存在する蛇紋岩という特殊な地質のところには、南ア固有種のイナトウヒレンが生育しています。

◆大きな山体と奥深い谷

南アの地形的特徴としては、奥深くまで切れ込む谷があります。このような地形は多くの植物に生育場所を提供します。キタダケトラノオ、ピランジなどの希少種がみられます。



写真3. キタダケトラノオ



写真4. ピランジ

◆内陸部である

内陸部は冬にとっても寒く、乾燥する気候になります。そんなことから、北海道、シベリアにおもな分布域をもつ種類が隔離分布しています。シラオイハコベ、ドロノキ。

◆まだまだ発見がある

多くの種の新たな分布地が発見されます。アオホオズキ（南アでは初記録）、シラオイハコベ（南信では初記録）など。奥が深く、まだまだ基礎調査が必要です。

(蛭間 啓)



写真5. 奥深く続く谷と石灰岩